第4回 小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

■**日　時**：令和2年12月18日（金）13：00～15：30

■**場　所**：小石原川ダム管理所1階説明ホール

■**出席者**：（委員）古賀部会長、飯田委員、馬場委員、広渡委員、松井委員、真鍋委員、山根委員

（事務局）11 名

（オブザーバ）国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所、朝倉市

■**配布資料**：

・議事次第

・資料−１　出席者名簿

・資料−２　小石原川ダムモニタリング部会の設置について

・資料−３　小石原川ダムモニタリング部会 規約

・資料−４　小石原川ダムモニタリング部会の公開方法について

・資料−５　第３回小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

・資料−６　令和元年～令和２年度小石原川ダムモニタリング調査結果・令和３年度小石原川ダムモニタリング調査計画（案）

・参考資料　小石原川ダムモニタリング部会 第5回クマタカ保全検討会 議事要旨

■**審議内容等**：

１．小石原川ダムモニタリング調査の内容

小石原川ダムの試験湛水の進行状況やモニタリング調査の方針、内容等について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

２．令和元年～令和2年モニタリング調査結果

令和元年冬季から令和2年秋季にかけて実施しているモニタリング調査結果について事務局より説明した。調査結果についての各委員からの意見は次のとおり。

○曝気循環効果調査について、今年は曝気循環設備を稼働させていないことを前面に出して説明した方が良い。

○濁度、溶存酸素等の変化の原因を説明できるようにしておいてもらいたい。

○植物の重要な種の移植について、ナガミノツルキケマンやヒメナベワリの増加要因の一つに外部から種が散布された可能性もある。

○エビネの病名は、はっきりと分からないが高密度に生育している場合はよくみられる症状であり、この程度であれば大丈夫だと思う。ただし、継続的にチェックする必要がある。

○導水施設における魚道下流の水路について、7月豪雨で生じた落差を解消するため、土のうを設置して様子を見てはどうか。可能であれば蛇カゴを設置することを要望する。
○蛇カゴは両生類・爬虫類など普通種の生息の場となる。設置を検討してもらいたい。
○水質の調査結果の説明については、まだ試験湛水中であるので変化の要因が分からないことが多いのは仕方がないが、環境基準を満足しているかどうかで終わらせず、何が起こってそうした結果となっているかに重点を置くことが望ましい。
○貯水池の深層の溶存酸素の低下要因が気になっている。
○植物の種数など「スギ・ヒノキ植林」の調査地区が最も多くなっているが、この地域のスギ・ヒノキ植林で種数が最も多いと誤解を与える可能性があるので表記を工夫した方がいい。
○ビオトープなどは、写真だけでも施工過程で見せてもらいたい。
○一部であってもいいのでシカの食害対策を講じてもらいたい。コア山で草本回復のために対策を講じるという話をうかがったが、すごくいい話だと思う。植物が回復すれば昆虫、動物、鳥すべてに影響がある。
○シカ対策として防護ネットを使用する場合、シカがからまって死亡する危険性がある。設置方法や目合について工夫すべき。植栽樹が育って必要なくなったら撤去することも含めて検討してほしい。

４．クマタカ保全検討会の報告について

○クマタカ保全検討会の開催状況、審議内容を報告した。

５．令和３年度モニタリング調査計画

令和３年度モニタリング調査計画について事務局より説明し、部会として内容を確認した。調査計画等についての各委員からの意見は次のとおり。

○この地域に生息する最大の種数を把握したい。そのために環境DNAによる調査を要望する。流入河川で採水すれば両生類だけでなく魚類などの生息種も把握できる。
○オオムラサキに関する調査地点は、河岸近くや林内など環境の違いに留意し、調査木を固定して調査してはどうかと思う。
○ダムに流れ込む谷川の調査をやってもらいたい。大小限らず流水の有無などについて、今後の生物保全のための資料として作ってもらえればと思う。

以　　上